

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和5年10月)

～訪日客の増加は続くも、インフレ等の悪影響で現状判断DIは続落～

- 景気ウォッチャー調査・10月調査の近畿地域の結果は、現状判断が48.3と前月比で2か月連続の低下(−3.5ポイント)となった。好不調の目安となる50を10か月ぶりに下回っている。また、先行き判断も46.9と3か月連続の低下(−1.5ポイント)となった。
- 足元の景気については、インバウンドの増加が続く中、関連業種では需要の増加が続いている。特に、百貨店や都市型ホテル、コンビニなどを中心に、売上の増加がみられる。また、今月は中旬ごろに気温が大きく下がったことも、衣料品を中心に季節商材の販売増加につながった。
- ただし、かねてからの物価の上昇による影響が、様々な業種に悪影響を及ぼす動きに変化はない。スーパーや家電量販店といった小売関連を中心に、消費マインドの低下や節約志向の強化が続いているほか、製造業などの企業関連でも、価格転嫁の遅れによる経営環境の悪化が広がっている。さらに、今月は150円を超える円安となったことも、物価の上昇を助長する結果となった。これらの状況により、今月はいくつかのプラス材料はあったものの、全体としてはDIが低下する形となった。
- 先行きについては、引き続きインバウンドの増加への期待が大きく、百貨店やホテル、コンビニなどを中心に期待感が高まっている。主に、中国人団体客の増加を予想する声が多いほか、円安環境が続いていることもあり、インバウンド市場全体の先行きについても楽観的な声が少なくない。
- その一方、物価やコストの上昇に対する警戒感は引き続き強い。消費者の節約志向が強まる中、価格転嫁が徐々に困難となっており、スーパーや家電等を中心とした小売関連のほか、製造業や建設業といった企業関連でも厳しい声が聞かれる。加えて、かねてからの円安傾向が輸入価格の上昇を招くほか、中東情勢の不安定化で原油相場が高騰する懸念もあり、コスト上昇への不安は業種を問わず広がっている。

「気温要因」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(服飾品担当)	・10月に入り、前月の暑さが少し和らいだことから、秋冬のファッションに切り替わっている。最低気温が12〜13度になった週末にはファッション商材が動き、久しぶりにアウターを中心に活発な動きとなった。また、インバウンドの来客数が大きく増加し、売上も4〜5月の倍近くに伸びている。さらに、18年ぶりにリーグ優勝を果たした在阪球団の優勝セールで多くの客が来店し、こちらも大きな効果が出た。化粧品や食品関連も2けたの伸びとなるなど、順調に推移している。
	やや良くなっている	百貨店(管理担当)	・紳士服や婦人靴、ハンドバッグなどの婦人雑貨の商品が、比較的堅調に売れている。ここ最近の冷え込みもプラスに作用している。
		衣料品専門店(店長)	・3か月前と比べて、来客数、客単価共に上向いている。要因としては、朝夕の気温が下がり、秋冬商材の需要が一気に高まったほか、冬季ボーナスへの期待の高さも挙げられる。
		衣料品専門店(店員)	・気温の変化に伴い、朝晩の寒暖差も出てきたため、アウターやボトム商材を求める客が増えている。
		その他レジャー[スポーツ施設](業務担当)	・スポーツ施設の管理を行っているが、酷暑も和らぎ、いよいよスポーツシーズンが到来した。世界大会での日本代表の好成績により、スポーツを楽しむ気運が高まり、施設の利用も増加傾向にある。

家計動向関連	変わらない	百貨店（売場主任）	・今月は売上目標が未達となる見込みである。前月は特需への対策が功を奏したが、今月はその反動が出ている。また、月前半は気温要因もあり、秋物商材の動きも鈍い状況であった。現状は、客の購買が積極的になってきたというよりも、コロナ禍の規制で抑えられてきたものが、ようやく元のライフスタイルに戻つつある。	
		百貨店（宣伝担当）	・気温の高い日が続き、季節商材の販売は苦戦しているものの、インバウンド売上の好調でカバーできており、全体としては3か月前と同じ水準で推移している。	
		百貨店（販促担当）	・ここ数か月と比べて、今月も大きな変化は見受けられない。前年比で来客数は増えており、売上も堅調に推移している。残暑でファッション関連の動きは鈍いが、前年も同様であり、もはや気候が変わったと捉えるべきである。一方、インバウンドも少し見掛けるようになっており、化粧品や海外ブランド品などの売上に底上げしている。	
		百貨店（販売推進担当）	・残暑が厳しく、秋物商材の動きが鈍い。インバウンドの購入で高額商材は相変わらず順調であるが、全体として来客数は微増である割に、買上率は低下している。結果として、直近は横ばいの推移となっている。	
		百貨店（マネージャー）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に加え、気温が下がり始めたため、外出する機会が増えている。国内客の消費は、アパレル関連や、単価の高い防寒商材を中心に増加がみられる。ただし、来客数はインバウンドが押し上げており、国内客の増加は余り実感できない。	
		コンビニ（店長）	・前月と比べて来客数は少ないが、客の様子に変化はないため、気温の微妙な変化による影響と考えている。特に競合先の増加はみられず、季節の変わり目で、し好が変化した影響が大きい。	
		コンビニ（店員）	・寒くなり、冷たい商品や飲料の売行きが落ちている。	
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・気温の低下とともに、感冒薬などの医薬品の売上は順調に推移しているが、マスク等の衛生、介護用品は減少傾向が続いている。一方、食品や日用品、日用雑貨等の生活必需品は堅調に推移しており、来客数、客単価も3か月前比で若干上向いている。	
	やや悪くなっている	百貨店（企画担当）	・気温が例年よりも高かった影響で、主力の衣料品の動きが良くない。	
		百貨店（売場マネージャー）	・今月は来客数が減少傾向となっている。8～9月は前年を上回ったが、10月は前年を割り込んでいる。気温が高かったことで、婦人服や紳士服などの秋冬商材の売行きが悪い。ただし、インバウンドの動きは円安の動きもあって好調であり、前年比で15%増となっている。	
		スーパー（店長）	・売上は店全体では不振となっている。衣料品は気温が高い影響で、例年は売れる秋物商材の動きが悪く、前年の実績を下回っている。食品も商品の値上がりで1人当たりの販売量が前年割れとなっている。ただし、商品の値上がりにより、売上は前年並みである。	
		スーパー（店員）	・猛暑の影響で野菜の生育が悪かったため、野菜の価格がかなり上がっている。全体的に価格の高い物が目立ったため、余り売行きは良くない。	
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・酷暑から一転して、冷え込みが進んだほか、物価の上昇による生活費の節約もあり、ガソリン価格の出荷は全国的に前年割れとなっている。	
	悪くなっている	一般レストラン（経営者）	・日常的な利用では、少人数による短時間の来店が目立った。急激に気温が下がり、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の流行が報じられると、予防対策などで飲食店の利用者は大幅に減った。国慶節での中国人客の来店も、予想をはるかに下回っている。売上は横ばいであるものの、仕入価格の値上げが続き、経営を圧迫している。	
		衣料品専門店（経営者）	・客はショーウィンドウの商品は見ているが、価格を見て去っていく状態が続いている。月末になって気温が下がり、多少は買いそうな気配があるものの、依然として財布のひもは固い。	
企業動向関連	なっている	やや良くなる	食料品製造業（営業担当）	・この時期には気温が高く、インバウンド効果も続いていることで、飲食店向けの飲料の売上も少し良くなっている。
	変わらない	やや悪くなる	その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・良い材料としては、イベントの復活による需要の拡大が挙げられるが、悪い材料としては、9月まで暑い日が続いたため、秋物市場が不振を極めている。プラスとマイナスの両方の材料があり、全体としては前年並みを維持している。

「世界情勢の不安定化」関連のコメント（先行き判断）

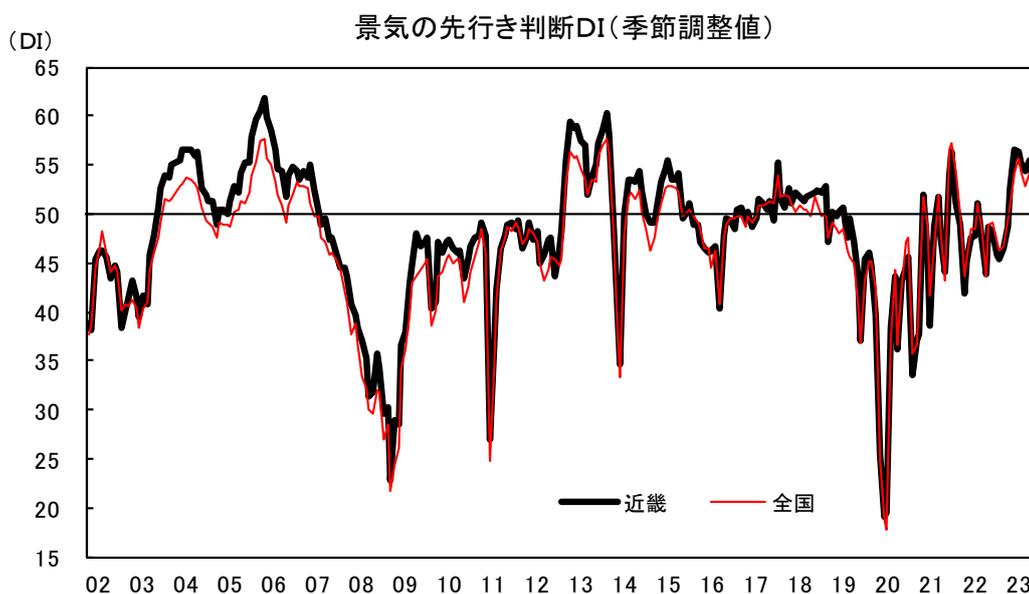
家計関連	変わらない	その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・基調としては堅調であるが、ガソリンや食料品価格などの上昇が重しとなる。ウクライナ危機に加えて、イスラエルでも紛争が勃発するなど、世界情勢の更なる不安定化で、消費マインドは悪化に向かう。
	やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・当店の状況だけを考えると、周辺環境が落ち着けば客足は戻ってくるものの、あらゆる商品が値上げとなるなか、やはり買い控えの懸念は残る。特に中東情勢の不安定化で、原油価格の上昇が更に進むことになれば、財布のひもが固くなることが予想される。

家計関連	やや悪くなる	百貨店（店長）	・暖冬のほか、イスラエル問題による社会情勢の不安定化、消費マインドの冷え込み等が売上の減少要因であるが、百貨店の大手取引先が都心に集中していることも、郊外店舗の弱体化につながっている。都心の店舗が高級化するなか、以前は取引のあった中小の雇事業者などが、郊外への売場の移転を求めてきたり、あるいは廃業したりと、店舗を維持するのも困難な状況である。
	変わらない	電気機械器具製造業（宣伝担当）	・円安の継続や不安定な世界情勢により、先行き不透明な状況が続く。
企業関連	変わらない	司法書士	・中東問題による石油価格の上昇や、円安の進行、依頼案件の減少といった状況から、良くなるとは考えにくい。
	やや悪くなる	一般機械器具製造業（設計担当）	・イスラエル問題による中東情勢の不安定化で、原油価格が高騰する懸念がある。また、円安傾向による影響も出そうである。
雇用関連	やや悪くなる	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・スーパーなどでは、物価上昇の影響が確実に始めている。今後、更に中東情勢が悪化すれば、原油価格の高騰も懸念されるなど、不安は募るばかりである。
	やや良くなる	人材派遣会社（管理担当）	・今後もしばらくは現在の傾向が続くと予想されるが、世界情勢の不安定化や物価の上昇など、不安要素が多いことは否めない。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・長期化しているウクライナ紛争に続き、中東でも軍事衝突が勃発、中国とフィリピンの間でも偶発的イベントが発生するなど、国際情勢はますます不安定化している。国内でも、年度内の効果的なインフレ対策は厳しい見通しであるため、景気が上向く可能性は低いと予想される。
やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・国内外のインフレやウクライナ危機、中国の景気後退など、世界的な課題が山積するなか、新たに中東でもイスラエルで紛争が勃発し、世界情勢が更に不安定化している。高水準の円安についても、グローバル企業の収益やインバウンド関連での恩恵以上に、国民や中小企業への悪影響が大きいことから、景気はやや悪化すると予想される。	

「暖冬」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	やや良くなる	スーパー（企画担当）	・おせちやクリスマスケーキといった、年末年始の予約の動きが良い。コロナ禍も収束し、かつてのような年末商戦の活気が戻る気配はあるが、少し気になるのが、暖冬の予想である。鍋物関連などの季節商材の伸びが鈍化傾向となるおそれがあり、先行きが懸念される。
	変わらない	コンビニ（経営者）	・冬になれば、例年は売上が5%ほど減るが、今年は暖冬の影響で外出が増えるため、落ち込みが少なくなる。
		家電量販店（企画担当）	・年末商戦に向けて、暖房機器を中心にチラシを投入し始めているが、まだ昼間は暖かいこともあり、集客や売上の増加につながっていない。
	やや悪くなる	家電量販店（人事担当）	・今後も物価の上昇が続く可能性が高く、最低限必要な物以外は、購入を控えると予想される。また、今年は暖冬の予報もあり、暖房器具などの売上が見込めない。
		百貨店（店長）	・暖冬のほか、イスラエル問題による社会情勢の不安定化、消費マインドの冷え込み等が売上の減少要因であるが、百貨店の大手取引先が都心に集中していることも、郊外店舗の弱体化につながっている。都心の店舗が高級化するなか、以前は取引のあった中小の雇事業者などが、郊外への売場の移転を求めてきたり、あるいは廃業したりと、店舗を維持するのも困難な状況である。
スーパー（店長）	・食料品の厳しい販売状況が続くなか、前年の実績から大きく増えるとは思えず、前年実績の維持も困難と予想される。また、前年とは違って暖冬傾向のため、衣料品の販売には期待できず、前年実績の確保も非常に厳しい。		

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		21年			22年			23年																		
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
現 状 判 断	近畿	54.0	56.5	56.8	38.3	38.2	48.2	50.5	52.2	51.9	40.0	44.7	50.1	48.8	48.7	49.8	50.4	53.6	55.2	56.4	55.5	54.5	54.6	54.7	51.8	48.3
	(全国)	56.0	58.0	58.3	37.9	37.4	47.1	49.5	53.0	52.1	43.9	45.5	48.9	50.8	49.4	48.7	48.5	52.0	53.3	54.6	55.0	53.6	54.4	53.6	49.9	49.5
先 行 き 判 断	近畿	56.3	51.1	48.9	41.9	45.2	47.5	47.8	51.2	47.4	43.9	48.6	48.0	45.9	45.4	46.6	48.6	52.7	56.5	56.4	55.2	54.3	55.4	52.9	48.4	46.9
	(全国)	57.3	54.3	50.1	43.7	45.3	48.4	48.4	51.1	48.4	43.7	49.0	49.2	47.1	46.3	46.8	49.3	50.8	54.1	55.7	54.4	52.8	54.1	51.4	49.5	48.4

※季節調整値